
[シンポジウム報告④]

報告Ⅲ AI社会の課題 ベーシックインカムと社会保障



敬愛大学経済学部教授

星 真実

すいません。私、今日、ベーシックインカムの話しません。実現すると思ってないんで。そんな話からスタートして申し訳ないですが、それではお話しさせていただきます。

私、敬愛大学経済学部で教授をしております、星真実（ほしまさみ）と申します。女の先生が話すんじゃないのと思って、今日来られている皆さん、実はおっさんでガッカリするかと思いますが、そんな皆さんを見て私もガッカリっていうことで。意外に私、メンタル弱いで。最近流行りの豆腐メンタルなんて書いてますが。

先日も、ある女子学生に、「自分、ショックに弱いで、あんまり傷つけないでくれる」「ガラスのハートなんで」って言ったら、「防弾ガラスでできてるんでしょ」って言われまして。せめてスウェーデンハウスの三重ガラスぐらいでって話はしたんですが、なかなかこの女子学生もうまいこと言うなと思うのですが。それはそれとして、女性と間違えられるっていう経験で、私、一番驚いたのが、運転免許証、女性だったことあります。あれ、顔写真付いてるじゃん。何、間違えたんだ？ AIだったら間違えなかったのかもしれないですけどね。人為的ミスって、おっかないですよ。おかげで私、免許センターに、皆さんよりさらにもう1時間長くいるという特権をいただいたことあります。

免許センターっていうと、最近、免許証に性別、書いてありませんので。性同一性障害の問題とかでクローズアップされましたので、それでもしかしたら、性別載せないことになったかも知れません。中のICチップには、もしかしたら私、女性って書いてあるかも知れませんが、それはわかりませんが。

そこからどんな話に展開していこうかっていうと、代書屋って昔、ありませんでした？ 免許センターとか、免許更新をできる警察署の周りに、すごい数の、ちゃんとした店から、何これバラックじゃねって店まで、どんだけ出張してるのって数あったかと思いますが、

すっかりなくなりましたよね。なくなった仕事として、行政書士、紹介するのはともかくとしてですね。

一つは、1980年代以降のオフィスオートメーション化、機械化、あるいは、コンピューターを導入してるっていうことによって、皆さんが直接、免許センターに行っても、すぐに入力作業をしたり、あるいは、書類審査もできるようになった。確定申告も、そういう意味では、だいぶ楽になりましたが。そういった面で、1980年代以降、既にOA化によって、だいぶ、われわれの生活は便利になっているところってありますけどね。

それに加えて、実は、申請するときに、昔はもう一枚、申請書に同じ写真、必要だったんですよね。だから、取りあえずちょうどいいから代書屋行って、車も停めさしてもらえらるんで停めてって、昭和生まれの方は、だいぶ利用したかと思うんですが、すっかりなくなりました。ということで、実は、なくなってる仕事って、今までも結構あるっていう、そういう導入をしたいわけなんです。

それともう一つは、1980年代以降、散々行われてます民間活力の導入ですね。必ずしも民営化っていう言葉と同一に考えてはいけないと思うんですが、三公社五現業、殆どなくなりましたけども。その中で、NTT、KDDI…、ソフトバンク。必ずしも、全て事業を民営化するっていうのはどうなのかなって話をなぜするかっていうと、電気に続いて、とう

表1

民間活力の導入	
公衆電話／電話ボックス ⇒携帯ショップ	
トヨタ「かんぱん方式」 Just-In-Time System →POSシステムに応用 Point-Of-Sales System ⇒セルフレジ	
総務省日本標準産業分類（小分類）	
7892	エステティック業
7893	リラクゼーション業 (手技を用いるもの)
7894	ネイルサービス業

とう水道も自由化。どうなんですかね？ 費用対効果っていう意味では、なんか水道料が20倍になるとかいう噂、ありますけど、大丈夫なんですかねと思ってるんですが。ただ、民営化が進んだことによって、効率化が図られてるということも、当然のことですので、そういう意味ではもともと、電信電話公社さんが持っていた電話ボックス、結構、全部なくなっちゃって、われわれが子どもの頃には、携帯ショップってこんなにできるって予想してた？ っていう、新しい仕事が生まれてきているっていう話をしたいわけで（表1）。

携帯ショップだけではないんですけども、セルフレジも同じように、これはトヨタのかんぱん方式を、ゴチャゴチャしたことは時間がないんでやめますが。わざわざマイバッグ持って、本来はレジ打ちしてくれて、お金渡したらおつりくれて、場合によっては商品も袋に詰めてくれたっていう、お店の側がやってた作業を、われわれが喜んでやっています。大丈夫でしょうか。店が完全にサービスを放棄してると思うんですが、それでもセルフレジのほう为空いてるしとかいって、流れのままに皆さん、使ってるかと思うんですが。サービスの放棄じゃない、むしろ、便利になってる。これ、大丈夫なんですかね。そういったことも、AIに辿りつく、辿りついてたのかも知れませんが、様々なオフィスオートメーション化によって、その影響で、われわれの生活の中に、実は、馴染んできてるんですね。

平成19年に、生活サービス業という大分類の中の、洗濯、理容、美容、浴場っていう中分類の中に、エステティック業が小分類で、新しく加わりました。エステの店って、ものすごい数、増えてますね。その後、平成25年に、2,980円で60分揉み放題みたいな、おびただしい所に見るようになりましたよね。急激に増えました。現代人はものすごくリラックス求めているんでしょうか。わかりませんが。

そして、同じ平成25年に、ネイルサービス業って、今日、男性の方が多くて、あんまりピンとこないと思いますが、ネイリストを目指してる若い女の子、いっぱいいるみたいで。非常に残念なお知らせなんですけど、ネイリスト、これからなくなる職業の一つになってます。実は、お店に行かなくても、比較的安価で、比較のおしゃれなネイルが、シール式で売り出される、そういうキットが結構、発売されてまして、今後、ネイリストが生き抜くためには、ネイルアーティストとしての腕、プラス、顧客を抱える。つまり、様々な楽しいお話を、結構、時間かかりますから、お客さまとたくさん話題を持てるようなコミュニケーション能力の高いネイリストが生き残る。これ、どの職業でも一緒じゃないですか。コミュニケーション能力、人間力。最後には、最終的にそういうことなのかということ。

従って、今まででお話ししたかったことをまとめますと、一つはこれまでも、死んでいく職業、生まれていく職業、様々な職業があったと。そして、それをもう、既に皆さまは乗り越えてきてるということが言えて、それともう一つは、結局、生き残る職業の中でも必要なものは人間力。人間らしいサービスってということで、この点をまず第1点、最初のチャプターで確認しておきたいなということで、お話ししました。

さて、少し労働の話をして、次はしましょう。ライオンって1日に2時間、全速力で獲物を追い掛けますが、それ以外の22時間はゴロゴロしてます。2時間追っ掛けて、獲物、取れないこともありますよね。従って、ライオンの労働時間、測るやつはいないと思いますが、労働時間は2時間。哺乳類の中で、一番働いてる動物って何って探しますと、ビーバーってやつで、ダムを造って、川の中で、家族で住みます。そのダム建設にかかる時間が、1日4時間。昆虫も入れます？ 昆虫も入れて、一番労働時間の長いやつらは、ミツバチの中の働き蜂っていう、お嬢さまがたです。働き蜂に男性いないんで。男性のハチは、どんな末路を迎えるかを話していると、それだけで私の持ち時間なくなっちゃうんでやめとくことにして。働き蜂の1日の労働時間は6時間。その働き蜂のほとんどが、過労死で死にます。1日6時間働くと死ぬんだって。ミツバチにとっての睡眠薬に当たるような薬を少しずつ与えて、休み休み働かせたら、ミツバチの寿命が2倍に延びたって実験があるぐらいですから、働き過ぎっていうのはよくないですよ。

なんで人間は8時間も働くの？ その理由がこちら、左上の。アメリカの労働組合が、1日12時間まだ人間が働いていた時代に、従って、年代としても1886年ってことになってますが、その頃に、働くのを8時間、生活時間を8時間、睡眠時間を8時間という、3分の1ずつのライフサイクルを組み立てさせてくれないかと、こういう要求をした結果、労働者側が8時間労働を勝ち取ったんですね。もっと今、短くてよくないですか？ っていうことで(表2)。

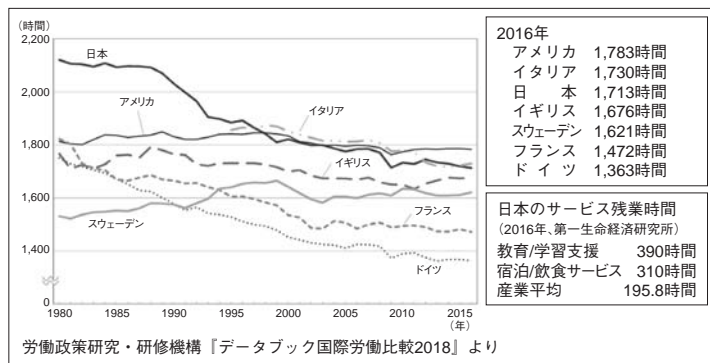
さて、その前提が間違ってるか、合ってるかはともかくとして、AI、あるいはAIを搭載したロボットの導入によって、われわれの仕事量が減るという前提のもとで考えた場合、これまでの歴史からいうと、日本の場合には必ず、人員整理、リストラ、派遣切り等、人

表 2

仕事量＝人数×時間が減少した時
1886年5月1日 (May day) ＊アメリカ労働総同盟 「8時間は労働、8時間は休息(＝睡眠)、 そして残り8時間は 自分たちの自由な時間のために」 (1日12時間労働の時代)
＊日本の場合 企業経営の合理化における 整理解雇／リストラ／退職勧奨(肩たたき) ⇒人数の方を減らす
＊ドイツ／オランダの場合 ワークシェアリング (work sharing / job sharing) ＝仕事の分かち合い ⇒時間の方を減らす

数のほうを減らすという政策をずっと続けてきました。ところが、ドイツの場合には、フォルクスワーゲン社という会社を中心に、よく話される例なんですけども、ワークシェアリング、仕事の分かち合いっていう方法を行いまして、日頃の生活のインパクトがあまりにも強過ぎるといけないので、月々の月給は全員我慢して、10%カット。それから、外国にはボーナスって考え方がありませんので、クリスマスの週に渡される13ヵ月目の賃金といわれてる賃金があるんですが、そのボーナスっぽいものを、かなり大幅にカットする。その代わりに、1週40時間の労働時間を、28.8時間に短くして、みんなで労働時間を分かち合おうという時短を行ったわけですね。

図1 一人当たり平均年間総実労働時間(就業者)



その結果、現在、世界の労働時間、このようになっています(図1)。ドイツの労働時間、1,363時間ですよ。日本の労働時間、1,713時間です。意外に短いじゃないと思った方、います? 一番上のアメリカですけど、1,783時間になっていますけど、ムーンライティングの時間を含んでいます。これ、

ちょっと独特な時間なんですけど、昼間の時間に働いて、ちょっと昼の給料じゃ少ないからなっていて、夜の仕事をした時間、含まれてます、これが。女性の方、今、多いですけど…。ちょっとこれ以上は、教育の現場なんでやめましょうか。

イタリアは変な国なんでやめて。イタリア人は2種類いるんで、ものすごい働き者もいますけど、働いたら負けだみたいなね。イタリア人に聞くと、働くことは喫煙習慣と同じぐらい体に悪いんでやめろって言うんで、話をやめるっていうことにして。

イギリスの場合は、1,676時間になっていますが、この時間の中に、家に持ち帰ってした仕事の時間が含まれてます。日本だったら、風呂敷残業ですよ。よくそれを申告して、労働時間としてカウントすると思いますが、全部、賃金の裏付けがある時間なんですね。

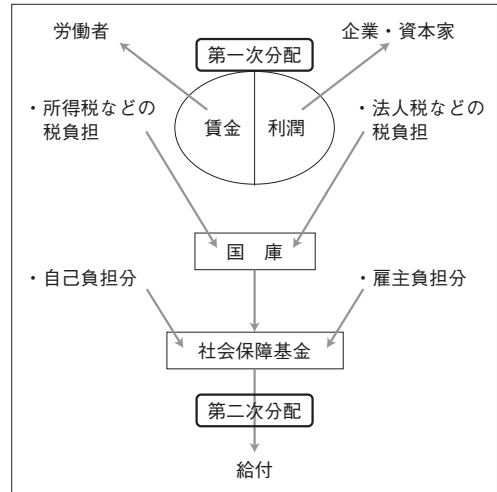
それに比べて、これ、正確なデータを取れないんで、日本の、あくまでも第一生命さんが出してる参考値ですけども、教育サービス残業、390時間。うちの大学、そんな過酷な労働環境じゃないですけども。すごいことになっています。平均でも195.8時間っていうね。おかげで、フジヤマとかゲイシャとかスキヤキとかスシと一緒に、カロウシって言葉が世界に通用する日本語になってますんで、そろそろこの不名誉、撤回しない? ということで。

この労働のところで、私が皆さんに伝えたかったことってというのは、これから仕事は減るってことになっても、みんなの仕事を奪うのではなくて、それぞれが時間短縮をしながら、この人材不足っていう現状も含めて、乗り越えていけないかっていう、あくまでも提案です。それが正解だという気はありませんので。これが労働に関する話。

三つ目、生活に関する話を少ししましょう。社会保障という、必ず二次分配っていう話が出てきますんで、その話をするために、簡単な表(図2)を作ってみたんですが。われわれの国民所得、あるいは、国民総生産というの、必ず、どんな形であっても、企業の

内部留保でもそうですが、われわれ労働者に支払われる賃金か、企業の経営者に払われる利益か、あるいは内部留保かという二つにしか分かれませんが、これを所得の第一次分配と呼んでるんですね。その中から、社会保険料、あるいは税金というようなものを取られて、プールされたものの中から、もし万が一、社会的リスクが起こった場合、みんなに分けられたものをもう一回集めて、もう一回みんなに分けるので、第二次分配と呼んでます。こんなこと、釈迦に説法だと思いますので。

図2 国民所得の第二次分配(再分配)



問題なのは、一つはベーシックインカムの話です。ベーシックインカム構想っていうのは、無条件で全国民に7万円配るっていう構想なんですけど、あり得ないですか？ そのためには、消費税を33%に上げなきゃいけないっていう試算が出てるんですが、ちょっとあまりにも荒唐無稽なのと、65%仕事なくなるとか言われてたのが、なくなるのは9%だとかいう話が出まして、それでちょっと今回は、私の話の中では割愛しようと思ってるんですね。なので、もしどうしても、この件について聞きたいっていう方は、もちろんいらっしゃいましたら答えますので、ちょっと今日は時間もないのでカット。

むしろ、保険料が税かっていう話のほうが大事です。この話、よく出ると思うんですが、保険料っていわれたら、なんか、自分で負担しなきゃいけないと思いませんか？ 税金っていわれると、消費税とか上がるし、自分で負担しなきゃいけないかって思いませんか？ これ全部、自分で負担する話なんですけど、あるもの隠してるんですよ。図の右側、経営者、利益の中から得たものところにも、ちゃんとプラスしなきゃいけないよっていう話。

だから、例えば、AIを搭載したロボットを導入する企業に、特別課税するとか、そういった形で、絶対OKと言わないと思えますけど、そういった形で、お金を集めてもいいんじゃないかっていうことで。そのお金の集め方の参考例として、二つほど、イギリスの例と、フランスの例をご紹介したいと思うんですが(表3)。

表3

イギリスの公的扶助制度 Income Support 所得調査 → 捕捉率捕捉率85% (政府発表)
日本の公的扶助制度 “生活保護” 資産調査 → 捕捉率10% (研究者試算)

こちらの女性の方、ご存じですか？ ポルトガルで旦那さんと住んで、旦那さんとの関係が冷え切った頃に子どもが生まれまして、離婚してその子を持ってイギリス戻ってきたんですね。戻ってきた子が小学生なんで、イギリスではインカムサポートっていうんですけども、収入が足りない分に対してもらえる月々のお金。彼女の場合には、年間150万円ぐらいもらってたと思うんですが、そのお金をもらって、毎日、同じ喫茶店の2階の窓側の席で、奇妙なお話を書いているっていうね。その後、出版されたのが『ハリー・ポッターと賢者の石』って作品なんです。J・K・ローリングさんです。現在、世界長者番付、女性第2位です。イギリス政府は、毎年150万円のお金を彼女にあげることで、後

表 4

日本の「児童手当」 ・ 給付期間：小学3年生修了時まで 所得制限あり ・ 給付額： 第1子、第2子 月5千円 第3子以降 月1万円
フランスの「家族手当」 ・ 給付期間：20歳まで 所得制限なし ・ 給付額：年間 18~44万円 平均 31.165万円 ・ 財源：事業主拠出金60%+税40%

に、数10億円という税金を手に入れたという、夢のようなお話ですが、本当に夢なんですけれども。日本だったら、ハリー・ポッターは生まれません。これ、そんなおばさんいたらね、「月5万でもいいからパートしろよ」って言われますよね。そういう生活指導がケースワーカーさんから入ります。日本が夢のない国だって言ってるわけじゃないですよ。現実主義だから…、そういうこと言っちゃ駄目ですね(表4)。

時間もないんで、次のお話。フランスの家族手当。

児童手当って日本では呼んでますが、お金は子どもにやるもんじゃないってことで、フランスでは家族手当って呼んでるんですが。見ていただくとおわかりのとおり、日本では第1子5,000円、第2子5,000円、小学校3年生になるまでもらえますが、フランスでは20歳までもらえるんですよ。すごい充実してるでしょう。この財源が、日本では税金ですけども、フランスの場合には、60%が雇い主が負担してるんです。その理由はなんでかっていうと、子どもってというのは、将来、労働者になるから、先行投資として企業が社会として子どもを育てなきゃいけないって考え方が根付いていまして、通称、産業負担って呼んでますが、雇い主が子育てのためにお金をかなり払ってます。残りの40%が税金です。その結果、出生率、ちょっと最近、下がっちゃったんですが、先進国の中で…、先進国って言い方自体がまずいですね。OECD加盟国の中では、フランスだけが出生率2.0を回復したんですね。日本はもう、バンバン下がってまして、一番悪いとき、1.26っていう数字ですけれども。

この辺の経緯について、もうちょっと調べてみたいって方が調べてみると、実は、フランスでも、子どもを産んでるのはムスリム系の移民で、パリのご婦人がたが、バンバン子ども生んでるわけじゃねえと、そういうふうな批判もあるんですけど、大事なのはそこじゃない。子育てをするだけに十分な制度があるって、そこね。

なんか、気になっちゃった人、います？ 気になっちゃった人がいたらっていうか、私は気になってるんで、一応、解説するんですけど、ものすごい1966年の人口、凹んでるじゃないですか。丙午です。その迷信だけでこんなに下がる？ って思うんですが、2020年、オリンピックがあって、2025年、大阪万博があって、2026年、丙午来ますんで。噂に踊らされて、出生率下がらないで欲しいなと思うんですけどね。

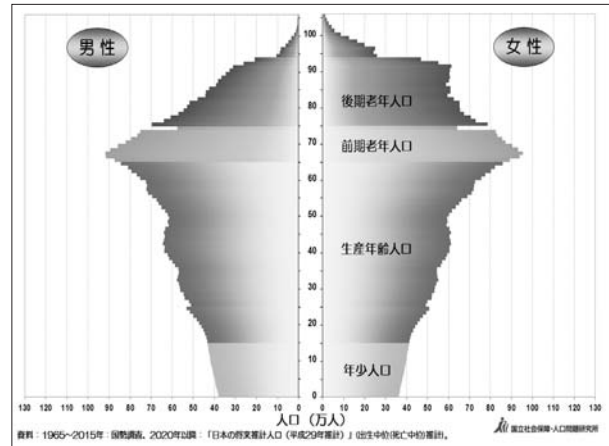
ともかく、昔はフランスも、お金さえあげれば子育てなんてするもんじゃないよってバカにされてたんですが、案外、そういう制度を整備するってことは大事だよって話でしたかったってわけで。

さて、次、それを基に作ってる人口ピラミッドですけど、ピラミッドっていうからには、二等辺三角形になってるのがいいですよ、当然のことながら。じゃないと、拡大再生産できません。ところが、これ、ウエストと足が細いよね、日本ね。別に下半身デブがいいとは言いませんが、他の国と比べていただきましても、かなりスリムです。これ、大変ですよ。大変ですよって言い方、変なんですけど。

20年後に様々な人の仕事がなくなるって噂があるんで、図3のグラフが、2040年の予想図です。これが、年少人口と生産年齢人口がやや少なくて、前期老齢人口と後期老齢人口

がかなり多いっていうね。22年後のことなんで、皆さんがどこに所属するか分かりませんが。なので、うちの学生に話すときにも、高齢化の問題っていうのは、われわれの問題じゃないと。われわれはもう、一丁上がってるから。おまえらが60、65になったとき、大変だぞって話をするんですが。都合のいい話なんですけれども、可能であれば、生産年齢人口の少なくなってしまった部分を、別のロボットでもいいですし、

図3 人口ピラミッド(2015年)



AI搭載のロボットでもいいですし、本当に労働を代替して、人材不足をカバーしてくれないかなっていうのが1点。

それと、古田先生の話にもありましたけども、高齢者が生き生きと働ける社会っていう意味で、前期高齢人口ぐらいまでは、人生100年時代として、75歳定年にするのは長いかもしれませんが、時短すればいいんでね。1日2時間でも3時間でも、AI、あるいはAIを搭載したロボットのサポートを受けながら、給料もそれなりにもらいながら、労働できる社会っていうのを目指すことができないかなという。皆さん、共通のテーマだと思いますけれども、AIとの共同による豊かな社会、愛のある社会、こういったものを築けないかなという期待というか、お願いをしながら、本日の私の喫茶店で考えた奇妙なお話を終わりにしたいと思います。ご清聴、ありがとうございました。